

## 船井情報科学振興財団 第 8 回留学報告書

イエール大学にて化学&環境工学博士課程 4 年生になりました兼田真周です。新学期が始まって早々に指導教授との個別ミーティングで来年度卒業の打診を受けてしまいました。それ以降、今抱えているプロジェクトのまとめ上げから、萌芽的プロジェクトの進展を急ぎ、また同時に進路先の模索まで不安と緊張がじわじわと押し寄せてきています。入るのが大変なら出るのも厳しい現実を身に沁みて感じています。第 8 回目の留学報告書では、2023 年 9 月から 2024 年 1 月までの出来事をご紹介します。

---

### 執筆と GPT と実験

去年の夏頃から本腰を入れ始め、一日オフィスに籠もって論文原稿の準備に集中する日が最近増えてきました。まとまった結果を並べてアウトラインを作り、全体のストーリーがある程度固まれば、いよいよ原稿の執筆に移ります。現行のプロジェクトは学内外で三つのグループによって共同研究しているため、データ解釈からストーリーの擦り合わせまで一つひとつの段階で議論が絶えず苦勞しています。特に専門外のシミュレーションの箇所は、初稿を受け取った時には初め何が書いてあるのかよく分からず理解できるまで大変でした。

しかし執筆のみに集中していると、一日の終わりに進捗が少なく感じられることもあり、精神衛生上あまり良くないので、実験を隣で同時並行に走らせることにしています。大抵は一日一段落を目安に進めていますが、難しい箇所は数日かけて推敲することも多々あります。煮詰まって筆が進まない時などには、いつも外に出てキャンパスの目貫通りを散歩しながら熱を取っています。オフィスを出てすぐのヒルハウス通りは英国調の建築物が左右に建て並んでいて、特に秋には紅葉も相まってとても綺麗です。前回 2017 年に短期留学していた頃は、同じよ

うに執筆のために図書館で一日中パソコンに向かっても、たった一単語を思い付くだけで日が暮れてしまい、翌日には前日に書いた箇所をむしろ削って進捗がマイナスになる日もありました。これらの時期に比べると、今は多少生産性が上がったように感じられます。なるべく早く正確に文章を書く力の大切さは学年を重ねる毎に身に染みて感じられます。

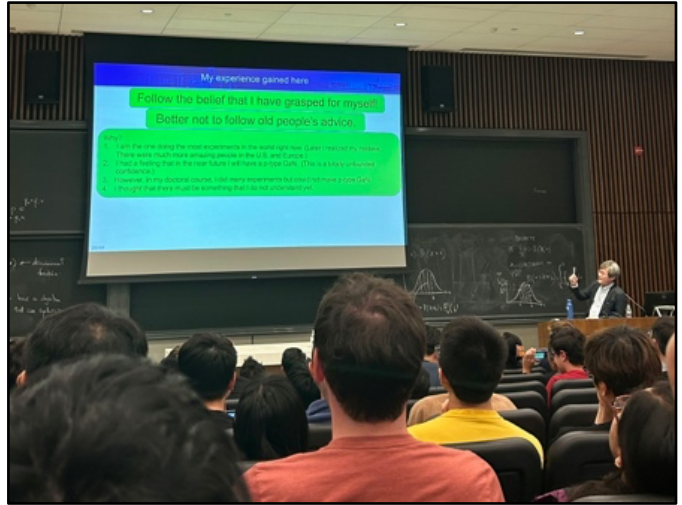
もちろん最初から最後まで自力で推敲することが大事ですが、時間効率を気にし始めるとどうしても ChatGPT を無視するわけにはいきません。リリースされた当初は主要ジャーナルがその使用制限について大々的に議論したり声明を出したりしていたので、何となくあまり触っていませんでしたが、詳しい友達（FOS の山田くん）たちから話を身近によく聞いていたのと、自分のタイムラインも厳しくなってきたので昨年夏頃からやっと本格的に使い始めました。このサービスにより、普段の英文校正から形式的な報告書やメールの作成、技術的な質問回答までとても幅広い作業用途で大幅な時間短縮になっています。

## 余暇と普段の生活

ルームシェアを解消し一人暮らしになってから2年目に入り、やっと普段の生活が板に付いてきたように感じられます。九月初めに高校の同級生がオハイオ州から NYC まで訪ねてきてくれたので観光名所を各地巡りました。十月半ばには、今年で3回目となる学内日本人会の歓迎会を開催することができました。今回は二人の後輩を誘って一緒に幹事を分担できたので、この勢いのまま引き継ぎまで任せようとしています。十一月には FOS の馬淵くんと田場くんとマンハッタンでランチすることが出来ました。今学期は工学部が主催するセミナーが充実していて、青色 LED の開発でノーベル物理学賞を受賞された天野先生や TSMC の CEO による講演があり、どちらもユニークな発表でとても面白かったです。

## おわりに

四年目は荒々しく始まりました。将来の展望を考えつつ、最終日から逆算しながら日々の予定に奮闘しています。残された時間の一日一日がとても貴重に感じられます。周りへの感謝を忘れず、後悔を残さないよう引き続き四年目後半も尽力していきたいと思います。末筆になりますが、いつも船井情報科学振興財団の皆さまからの温かいご支援を有難うございます。これからも何卒よろしくお願ひ申し上げます。



左上から時計回りに、ニューヨークのジャズバーBlue Note、名古屋大学の天野先生による講演、三回目となる学内日本人会歓迎会（Taste of China）、今春から University of Southern California にて助教授に着任されるポスドクの方の送迎会で、どれも楽しい思い出ばかりです。